

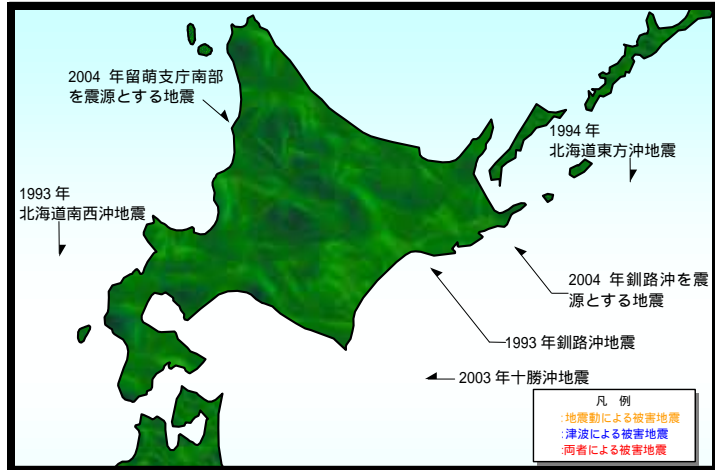
# 地震リスクマネジメントによる既存建築物の耐震安全性評価手法に関する基礎的研究

担当部科 生産技術部生産システム科、環境科学部都市防災科  
研究期間 平成17～18年度

## 研究の目的

北海道においては、1993年から94年の釧路、根室、檜山地方の被害地震や、2003年から04年の留萌、日高、十勝、釧路地方の被害地震を含め、これまで多くの地震が発生しています。また、同じ道内でも、地域に被害をもたらす地震活動は異なります。

本研究は、こうした地域の地震の危険度や建築物の現況を踏まえた安全性評価の手法として、地震リスクマネジメント技術を利用した手法について基礎的な検討を行います。

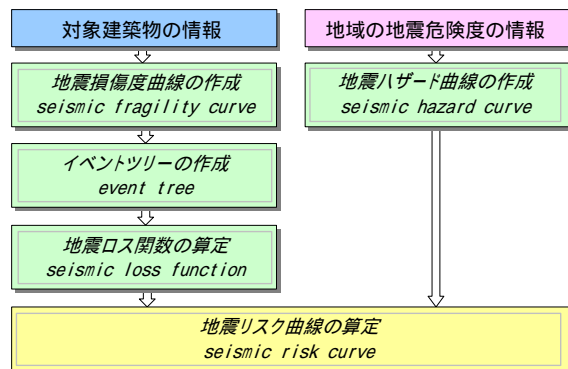


北海道に被害をもたらした地震の震央分布  
(北海道地域防災計画に加筆)

## 研究概要

地震リスクマネジメントは、まず対象建築物の情報と地震危険度の情報から現状の地震リスクを評価します。次に算定したリスクに応じてリスク低減等の対応方策を立案し、それぞれの方策について再度評価して実行する方策を選定することで行われます。

今年度は、既往手法の整理を行い、地震リスクマネジメントを構築するための地震ハザードや地震損傷度等の評価手法について検討しました。

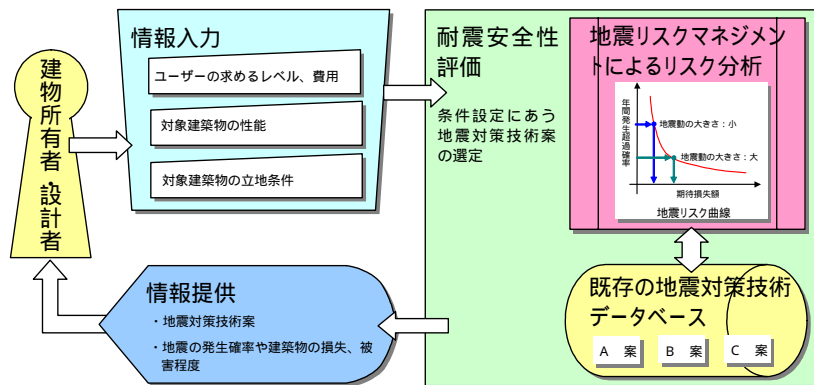


地震リスクの評価手法

## 活用方法・成果

本研究の成果は、既存建築物の耐震化を促進するため、建築物所有者や設計者へ安全情報を提供して行くツールの構築などに活用します。

来年度は、引き続き地震リスクの評価手法を検討すると共に、耐震安全性評価手法の基礎的な検討を行います。



成果の活用例